

大嘗宮建設資材（カラマツの良質な皮付き丸太）

の供給について

樹皮を傷つけない搬出への挑戦

はじめに

浅間山（2,568m）とカラマツ林



令和元年11月14日、皇位継承重要祭礼「大嘗祭」の中心儀式「大嘗宮の儀」が、皇居東御苑に特設された大嘗宮（廻立殿、悠紀殿、主基殿）で行われ（写真1）、その主要部材として、北海道森林管理局、関東森林管理局、中部森林管理局の国有林からそれぞれヤチダモ、スギ、カラマツの皮付き丸太計1,254本を供給



写真1 完成した大嘗宮

中部森林管理局からは、これら建物に使用する資材として、東信森林管理署（以下「東信署」という）管内の軽井沢町の国有林から生産されたカラマツの良質な皮

しました。

付き丸太1,100本を供給しました。今回、供給に携わった佐久森林組合、株式会社吉本及び東信署が、丸太の皮を傷つけないように、各作業工程において、どのような工夫を行ったのか、その一連の作業を紹介します。

「管内概要」

東信森林管理署管内は、長野県東部で千曲川の上流に位置し、流域面積は247,696haで、長野県全体の18%を占めています。このうち国有林は、4市6町5村に所在し、その国有林野面積は58,741haで、流域面積の24%を占めています。中でも水源かん養保安林は国有林面積の90%と高く地域の重要な水源地となっています。

また、この地域には、学術的にも貴重な自然や動植物が存在しており、4地域が国立公園、国定公園の特別保護地区や特別地域に指定されています。国有林ではこの貴重な森林を保護林に設定し、豊かな自然環境の保護・管理に努めています。

さらに、湯の丸・高峰高原、白駒の池や双子池と山岳が一体となった優れた景観であること、リクリエーション施設等が整っていること、鉄道や道路交通網の整備も良いことから、森林浴やスキー、登山等を目的に首都圏などから多くの人が訪れています。



署の基礎データ

所在地	長野県佐久市白田 1822		
区域面積	247,696ha	うち森林面積	175,066ha (森林率：71%)
国有林面積	58,741ha (国有林率：34%)		
管轄区の関係市町村	4市6町5村 うえだし、とうみし、こもろし、さくし、ながわまち、かるいざわまち、みよたまち、たてしな 上田市、東御市、小諸市、佐久市、長和町、軽井沢町、御代田町、立科町、佐久穂町、小海町、青木村、北相木村、南相木村、南牧村、川上村		

中部森林管理局 資源活用課・東信森林管理署

樹皮を傷つけない 供給へ向けて



大嘗宮は、「黒木造り」という皮付き丸太を使用する伝統的工法で建築されます。主要部材の供給に当たっては、良質な皮付きの状態を維持するため、伐倒から運材、選木から保管に至るまで様々な工夫を行いました。

①伐倒から運材作業（写真2）

伐倒、造材、運材作業では、佐久森林組合及び株式会社吉本が樹皮の損傷



写真2

【写真上】樹皮の損傷を防止した運搬の様子
【写真左】丸太の損傷防止のためスリングベルトや緩衝材を使用



を最小限にするため、綿密な作業を行いました。

伐倒作業は、樹皮が剥げにくい時期（幹に水分を上げない秋～冬）に行い、衝撃が大きい斜面下方への伐倒は避け、伐根には伐採作業中に発生した枝などを被せるなど、伐採木への損傷を最小限にするための技術を駆使しました。枝払作業は、高性能林業機械では樹皮を傷つける可能性があることから、チェーンソー等で一枝一枝処理するなど細心の注意を払いました。

造材作業は、丸太を仕様書に合った長さや太さに造材するため、複数回切り直すなどサイズの微調整を行いました。

トラックへの積込みに当たっては樹皮を傷つけないように丸太に緩衝材を巻き、布製のベルト（スリングベルト）を使用してつり上げました。さらに、運搬車の荷台と丸太の間にも緩衝材を

設置し、丸太の損傷を防止しました。

②選木から保管作業

選木作業は、依頼された本数の約3倍の丸太を一列に並べ、署員が一本一本長さ、太さを測定し、曲がりや節などの欠点に加え樹皮の状況を確認しながら行いました（写真3）。

また、出材の途中では、注文と出材したサイズを確認し、情報の共有を的確に行うことを心掛けました。

さらに、丸太の引き渡しを行った令和元年6月までの保管に当たっては、変色や干割れ防止のために100枚以上の遮光シートで丸太を被覆した上で、シートが風で飛ばされないよう紐で固定し頻繁に巡回をして、めくれ等があればその都度手直しを行うなどの対策を講じました（写真4）。

最後に



通常、木材の品質は曲がりや節の状況で判断しますが、今回はこれらに加え樹皮の状態が良質な皮付き丸太が求められたので、東信署では、樹皮が痛まないよう出材作業での監督業務や選木作業、養生管理に署員総出で取り組み、令和元年6月に無事引き渡しを行いました（写真5）。

署員にとっては労力的にも精神的にも大変な作業でしたが、皇位継承に伴う歴史の一ページに関われたことは大変名誉なことであり、今後の業務の励みにもなるものでした。

また、各事業体及び署員の尽力により良質な皮付き丸太を無事供給できたことで、今後、国産材とりわけ「信州カラマツ」の利用がさらに拡大することを期待します。



写真3 曲がりや節の状況、皮むけや目まわり等の欠点を細かく確認しながら、丸太を選木する様子



写真4 遮光シートで保護し養生する様子



写真5 引き渡された丸太の積込みの様子